

担当センター名		近畿地方ESD活動支援センター
プロジェクトのテーマ		脱炭素型ライフスタイルを促すESD学習プログラムの向上
プロジェクト期間		2021年7月～11月中旬
達成目標		「地域ESD拠点」等がもつ施設や学習教材等の専門的な資源を活かして、学習者（子供から大人）の脱炭素型ライフスタイルを促すESD学習プログラムの創出を目指す。講師等と交えた参加者（地域ESD拠点等）同士の学び合いを通じて、学習者の「気づき」「感動」「探究の欲求」が得られるように学習プログラムの質を高める。参加者が、それぞれの専門性を生かして脱炭素社会に貢献するモデル事例創出に参画することで、ESD支援・推進の取組のブラッシュアップやネットワーク構築につなげることを目標とする。
コメンター(団体・個人)		【講師】奈良教育大学 准教授/近畿ESDコンソーシアム 事務局長<地域ESD拠点> 中澤静男氏 【実践者】公益財団法人京都市環境保全活動推進協会<地域ESD拠点>/京エコロジーセンター 新堀春輔氏、石田浩基氏 【話題提供等】こども国連環境会議推進協会 事務局長 井澤友郭氏、森と水の源流館 事務局長<地域ESD拠点> 尾上忠大氏 【主催者】環境省近畿地方環境事務所 福嶋課長、柄本補佐 【事務局】近畿地方ESD活動支援センター 成山、蒔田、中澤
実施内容	勉強会①	【日時】7月27日(火) 13:30～15:30 【講師】中澤 静男氏 (奈良教育大学/近畿ESDコンソーシアム) 【情報提供】福嶋 慶三氏 (近畿地方環境事務所) 【参加者】地域ESD拠点、教員、自治体職員、NPO、企業、社会教育施設、研究者、大学生 計16名(全分科会固定参加者19名には、欠席の場合も各回の動画を配信して学びの継続を促した。(関係者含め24名) 【地域拠点】公益財団法人淡海環境保全財団、京都市環境保全活動推進協会、NPO法人バイオマス丹波篠山、近畿ESDコンソーシアム、森と水の源流館、NPO法人エコプランふくい、NPO法人アクト川崎、かわさき環境学習プロジェクト 【内容】脱炭素に向けた国内外の現状を把握するとともに、ESDの理解促進と参加者の交流による協働の意欲向上を図る。
	勉強会②	【日時】8月3日(火) 10:00～12:00 【講師】中澤 静男氏 (奈良教育大学/近畿ESDコンソーシアム) 【話題提供等】セミナー:井澤 友郭氏 (こども国連環境会議推進協会 事務局長) 事例紹介:尾上忠大氏 (森と水の源流館/公益財団法人吉野川紀の川源流物語 事務局長) 【参加者】1回目に同じ参加15名(関係者含め全員で23名) 【地域拠点】1回目に同じ 【内容】ワークショップや事例を通して、ESDの視点や行動化を促すプログラム創出のポイントを学ぶ。 ・セミナー(ワークショップ形式)「対話や学びを深める問づくり方講座～SDGsを自分ごととするための要素とは?」 ・事例紹介「地域資源を活かして学校と連携した実践事例の紹介」 ・グループワークによる意見交流等 ※グループワークは、環境事務所、事務局 (ESDセンタースタッフ) も参加
	勉強会③ ※参加者のニーズに対応して企画時から追加	【日時】8月17日(火) 10:00～12:00 【講師】中澤 静男氏 (奈良教育大学/近畿ESDコンソーシアム) 【話題提供等】セミナー:中澤 静男氏 (奈良教育大学/近畿ESDコンソーシアム) 活動紹介:金本 秀勝氏 (TOMO-NI) 【参加者】1回目に同じ 参加8名(関係者含め全員で14名) 【地域拠点】1回目に同じ 【内容】学習者の学び方の特徴の理解し、学習者の行動化を促す問い作りのポイントを学ぶ。拠点のESDプログラムを基に学び合い交流する。 ・セミナー(ワークショップ形式)「子どもはどのように学ぶ特徴があるのか～子どもの心理面から学びの明確化」 ・参加者からの活動紹介 ・紹介された活動に対してプログラムのブラッシュアップに向けた意見交流等(グループワーク) ※グループワークは、環境事務所、事務局 (ESDセンタースタッフ) も参加
	勉強会④	【日時】8月24日(火) 10:00～12:00 【講師】中澤 静男氏 (奈良教育大学/近畿ESDコンソーシアム) 【実践者】石田 浩基氏 (公益財団法人京都市環境保全活動推進協会/京エコロジーセンター) 【参加者】1回目に同じ 参加13名(関係者含め全員で21名) 【地域拠点】1回目に同じ 【内容】実践活動に向けたESD学習プログラム質向上のための意見交換～評価方法も踏まえて～ ・実践者から、脱炭素型ライフスタイルを促すESD学習プログラムの提案 ・提案された活動に対してプログラムのブラッシュアップに向けた意見交流等(グループワーク) ※グループワークは、環境事務所、事務局 (ESDセンタースタッフ) も参加
	勉強会⑤	【日時】9月18日(土) 10:00～12:00 【講師】中澤 静男氏 (奈良教育大学/近畿ESDコンソーシアム) 【実践者】石田 浩基氏 (公益財団法人京都市環境保全活動推進協会/京エコロジーセンター) 【話題提供等】活動紹介:清水 美沙氏・井上 竜馬氏 (公益財団法人京都市環境活動推進協会/さすてな京都) 活動紹介:庄田 佳保里氏 (NPO法人いけだエコスタッフ) 【参加者】1回目に同じ参加16名 (関係者含め全員で23名) 【地域拠点】1回目に同じ 【内容】ESD学習プログラムの再確認とESDの学びを他拠点の施設展示やプログラムにも生かす。 ・実践者から、前回の意見交換を受けてブラッシュアップしたESD学習プログラムの再提案 ・提案された活動に対してプログラムのブラッシュアップに向けた意見交流等(グループワーク) ※グループワークは、環境事務所、事務局 (ESDセンタースタッフ) も参加 ・参加者からの活動紹介(2件) ・紹介された活動に対してプログラムのブラッシュアップに向けた意見交流等(グループワーク) ※グループワークは、環境事務所、事務局 (ESDセンタースタッフ) も参加
勉強会⑥ ※参加者のニーズに対応して企画時から追加	【日時】10月15日(金) 16:00～17:30 【講師】中澤 静男氏 (奈良教育大学/近畿ESDコンソーシアム) 【話題提供等】活動紹介:南 哲朗氏 (奈良町資料館) 活動紹介:来田 博美氏 (滋賀県地球温暖化防止活動推進センター) 【参加者】1回目に同じ 参加12名 (関係者含め全員で17名) 【地域拠点】1回目に同じ 【内容】拠点のESDプログラムを基に学び合い交流する。 ・参加者からの活動紹介(2件) ・紹介された活動に対してプログラムのブラッシュアップに向けた意見交流等(グループワーク) ※グループワークは、環境事務所、事務局 (ESDセンタースタッフ) も参加	
実践活動	【日時】11月3日(水) 10:30～ 【場 所】京エコロジーセンター (京都府京都市伏見区深草池ノ内町13) 【実践者】石田 浩基氏・新堀 春輔氏・松本 万里子氏 (公益財団法人京都市環境保全活動推進協会/京エコロジーセンター) 【学習者】奈良教育大学附属中学校ユネスコクラブ(1年・2年)5名(引率:学校長、クラブ担当教員) 【参観者】講師、分科会参加者のうち希望者(教員、自治体職員、研究者)、近畿地方環境事務所、事務局 計15名 【内容】環境学習施設の展示を生かし、分科会での意見交換を経てブラッシュアップしたESD学習プログラムの試行(実践)。 <概要>館内の展示コーナーでは、個人で、またグループで対話しながら、消費者の立場で環境に優しい商品を選択する場の設定など、グリーンコンシューマーについて、環境にやさしい活動を考える。展示コーナーで学んだことも踏まえて、これからの自分の消費活動について考える。	

	<p>勉強会⑦ 拠点現地ツアー ※参加者のニーズに対応して企画時から追加</p>	<p>【日 時】11月14日(日)10:00～ 17:00 【場 所】参加拠点施設:TOMO～NI(パソナ・パナソニックサービス株式会社) 【参 加 者】講師、分科会参加者のうち希望者(中澤静男氏、井阪愛子氏、實久峰希夫氏、金本秀勝氏)、事務局 計5名(関係者を含め全員で8名) 【内 容】現地ツアーと意見交換(プログラム提供で留意するポイントについて意見交流・利用する側からの希望など)</p>
	<p>勉強会⑧</p>	<p>【日 時】11月20日(土)10:00～12:15 【講 師】中澤 静男氏(奈良教育大学/近畿ESDコンソーシアム) 【実 践 者】石田 浩基氏(公益財団法人京都市環境保全活動推進協会/京エコロジーセンター) 【話題提供等】活動紹介:井辻 敦雄氏(一般社団法人ウェルネスインパウンド協会) 活動紹介:竹井 齋氏(川崎市地球温暖化防止活動推進員) 【参 加 者】1回目と同じ 参加者7名(関係者を含め全員で15名) 【地域拠点】1回目と同じ 【内 容】実践による成果共有(ESD学習プログラムの更なる汎用性を考える)。拠点のESDプログラムを基に学び合い交流する。 ・実践活動の報告(評価方法を交えて) ・実践参観者からの感想等共有 ・参加者からの活動紹介(2件) ・紹介された活動に対してプログラムのブラッシュアップに向けた意見交流等(グループワーク) ※グループワークは、環境事務所、事務局(ESDセンタースタッフ)も参加</p>
成果	<p>目標達成度</p>	<p>○拠点の学習プログラムをブラッシュアップ 講師等を交えた参加者同士の学び合いを通じて、実践者である京エコロジーセンター(地域ESD拠点)がもつ施設展示を活かしたESD学習プログラムを創出できた。講師等を交えた参加者同士の学び合いを通じて、例えば、学習者の脱炭素型ライフスタイルを促すうえで、地球温暖化のメカニズムと自分たちの暮らしとのつながりを説明する導入に加えるなどの工夫がなされ、学習者の「気づき」「感動」「探究の欲求」が得られるように学習プログラムのブラッシュアップを図ることができた。また実践を通して、プログラムを提供する側(地域拠点等)と学習者との交流も、感動を与えたり気づきを促したりすることに深く関係していることが確認できた。実践活動の参加者(中学生)は、実践により環境保全に関する関心が高まったことが確認できた。行動の変容については、実践者が後追いアンケート等を実施していく予定である。実践活動後の分科会での成果共有(振り返り)では、分科会での意見交換を通じたブラッシュアップにより、脱炭素型ライフスタイルへの行動化を促すESDプログラムとなり得たという評価を講師および分科会参加者から得られた。 ○地域ESD拠点等参加者の交流 分科会参加者同士の意見交換の機会に重点を置いたことで、多様な主体からなる分科会参加者が、自身のESD活動への取組意欲向上や活動への新たな視点をもつことにつながった。特に、学習者の学び方の特徴を踏まえた学習者への発問が「当事者意識(自分との関連)」を持たせるうえで重要であることが分科会参加者間で共有できた。また、分科会参加者同士で勉強会以外でも情報交流・意見交流がなされるなど、ネットワーク構築につながることができた。</p>
	<p>プロジェクト関係者(コアメンバー、その他の参加者、実践活動の対象者)の変容</p>	<p>実践者のプログラム以外に、他の分科会参加拠点のプログラムについても発表の機会を設けて(発表希望者が多数のため、当初予定の5回の勉強会に加えて2回の勉強会:計7回の勉強会を行った)、多様な主体からなる分科会参加者間での意見交換を重ねたことで、複数の分科会参加拠点のESDプログラムが実際にブラッシュアップされた。また、分科会参加者相互の協働意識が生まれたことで、分科会参加者同士で勉強会以外でも情報交流・意見交流がなされるなど、意欲の向上が見られた(終了後も、近畿ESDセンターがつなぐ役となって、分科会参加者同士の情報共有や相談対応などを継続)。 分科会の最終回のアンケートでは、「次年度以降の分科会にも是非参加したい」「次年度は自分の実施した事例も発表してみたい」「次は当館の学習プログラム担当者も一緒に参加し、館内プログラムの企画や進行に活かしていきたい」「他分野との連携事例なども聞いてみたい」「教員仲間にも知ってもらい、教育現場として声や思いを共有できたらいいと思う」といった意欲的な意見が多くみられた。</p>
今後の課題		<p>※以下の記載内容を含め、近畿事務所および企画運営委員会等での次年度に向けた協議は未実施 プロジェクトのテーマとしては、環境省施策推進に寄与するものとなるよう配慮しつつ、地域ESD拠点のニーズ(他拠点や多様な主体間との交流等を通じて学び合いたいことなど)や、拠点がESDを推進するうえで抱える課題等を踏まえて設定することが望ましいと考える。 今年度の分科会では、分科会参加者同士の学び合いを重視して毎回ブレイクアウトルーム機能を活用した少人数制の意見交換と、それを受けた全体共有の機会を設定を行った。次年度に向けては、分科会参加者の学び・交流をさらに充実し、一層深められるよう、ブレイクアウトルームの進行方法や時間の配分等を検討したい。また、分科会参加者同士がそれぞれの専門性を活かし合う関係性構築ができるよう、ESDに取り組みたいや実際に取り組むうえで大切にしているポイントなどを知る機会をもう少し丁寧に時間をとるなど、地域ESD拠点のネットワーク強化に向けた内容を検討したい。 今年度は実践者からプログラムの提案をいただいて、それを分科会参加者でブラッシュアップするという内容で実施したが、次年度に向けては、分科会参加者の課題意識や拠点及び教育現場の現状をベースにして、様々な拠点においても応用して実施することが可能な汎用的なプログラムを分科会参加者が協働して作るという内容も一案として検討したい。</p>